

# 官公庁の減少を海外で補う

2009年度前半は、民間工事の落ち込みを官公庁の前倒しや補正予算で補った。「工事総量的には思っていたほど下がりは少ないが、採算面は供給過剰から利益を確保していく状況にある」と分析する。製品事業は「為替差益が出るように」一時的に利益が出たこともあり、「全体的にはなんとかなっているが、中身を見ると非

常に厳しい状況」と気を引き締め、舗装事業の官公庁工事は、2割程度の減少を予想、これまで官公庁の舗装工事で年間900〜1000億円規模を手がけてきたことから「200億円ほど従来より足りなくなる」と試算する。「これは生きるか、死ぬかという落ち込み。1年で2割減は経営努力のスト

ビードを超えている」その減少分を補う役割を期待する。海外事業だ。これまで海外はリスクが高いことから「できるだけやらない考えだったが、今後はできるだけやる」に転換する。10年度以降、「官公庁工事が減る分、150〜200億円を海外で補いたい」と位置付け

の発注が多いため、「関係会社の大日本土木と組んでやっていくケースが増える」とみる。製品事業が中国などで成立するかも調査を進めている。

国内の営業所網については、「財源の地方自治体への移譲が進み、地方の仕事が増えている」と感じている。現場に手厚く人を配置し、体制の充実を進めてき

た。「販管費を減らし、現業にシフトする。戦いに近いところを手厚くする」ことで、厳しい戦いを勝ち抜く。

建築、開発、プラントの3分野は「事業としていいところまで来ており、さらなる改善に見直し作業を進める」ことで、業績に貢献できる事業を目指す。「減る利益を周辺分野で補っていく。戦略事業として売り上げよりも利益を重視して展開する」



NIPPON

水島 和紀社長

その減少分を補う役割を期待する。海外事業だ。これまで海外はリスクが高いことから「できるだけやらない考えだったが、今後はできるだけやる」に転換する。10年度以降、「官公庁工事が減る分、150〜200億円を海外で補いたい」と位置付け

# 展望2010

## 道路舗装トツプ

—今後の市場環境をどうの官庁工事の受注規模は9  
と見る。

「公共投資は削減減で、200億円の不足が生  
れると覚悟している。当社じゆんじゆんになり、経営上の



NIPPON

### 水島 和紀社長

# 国内の不足分を海外で補完

懸念材料だ」

—対応策は。

「不足分を補うために、  
海外事業を展開する。米國  
グアムでアスファルト合材  
を製造する現地企業を買収  
し、プラントを再整備した。

沖縄米軍の移転問題など不  
透明な部分もあるが、優位  
性を生かした事業を展開し  
たい。海外事業は、グアム、  
政府開発援助（ODA）、  
日系企業の工場整備の三つ  
の柱で、150億〜200  
億円稼ぐ。海外で豊富な経  
験を持つ子会社の大日本土  
木とも連携していく」

「海外で合材事業が成立  
するかの検証作業も始め  
た。プラント設立の仕方や  
現地企業との協力体制を含  
めて調査する。検討を始め  
たばかりだが、興味はある」

「二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）  
の削減に貢献する『低炭素  
アスファルト舗装』は、合  
材の製造温度を50度下げる  
技術を確立している。問題  
は、開発費用を回収できて  
いないことだ。厳しい市場  
環境に対応して今後は、環  
境対策や当社に優位性があ  
るアストコース向けの技術  
開発など、対象を絞って取  
り組む」

「主力の舗装事業以外  
の展開は。  
「建築、不動産開発、エ  
ネルギーで一段と収益をお  
げることができるよう、採  
進めている。2〜3年のう  
ちに、利益貢献できる事業  
にしたい」

「市場の変化に組織と  
してどう対応する。  
「公共事業の権限が地方  
に移譲される方向にある。  
当社でも、本社や支店をス  
リム化し、プラントを含め  
た地方拠点の体制を充実さ  
せたい」。

「今後の技術開発をど  
う進める。」

「今後の技術開発をど  
う進める。」

「今後の技術開発をど  
う進める。」

日刊建設工業新聞  
平成22年1月6日掲載

# 乗乗につなぐ

## 2010年トップに聞く



NIPPON

水島 和紀 社長

# 海外事業を方向転換

10年を展望  
昨年6月、社長に就任。  
リーマン・ショック直後  
で受注環境は厳しく、民

間工事の落ち込みを官庁工  
事の前倒しや補正で補っ  
てきた。総量的には前年

り、量的には思ったより  
下がり方は少ない。ただ  
供給過剰感は否めず、価  
格競争が激しく利益確保  
までには至っていない。  
製品販売は、アスファル  
ト価格が下降局面にあっ

たため、為替差益のよう  
な仕組みで利益は確保で  
きている。総じて中身は  
厳しく、当初の厳しさは  
今も変わらない。  
戦略事業の建築と開  
発、プラントは、事業と  
していま一歩のところ  
まで来ている。採算性の  
向上へ見直し作業を進  
めている。2、3年後に  
は会社の経営に貢献で  
きる事業にしたい。減る  
利益を戦略事業で補っ

ているのが現状だ。事業  
規模の拡大は本来目的  
ではない。戦略事業で採  
算性を改善するという  
ことを中心的テーマと

をさらに開発に回すとい  
う循環があった。厳しい  
市場環境の中で、リター  
ンが少なく、回り方が悪  
くなっている。特定分野  
にポイントを絞る必要が  
ある。環境分野や、優位  
性のある自動車テストコ  
ースなどに可能な限り特  
化し、開発費を投入して  
いきたい。

PF事業  
現状、土木や道路事業  
は入っていない。道路メ  
ンテナンスが事業化され  
れば技術開発や創意工夫  
が生かされるのだが。ま  
た従来、建築事業は民主  
体でやってきたが、工場  
・倉庫が少なくなり、マ  
ンションも減った。そう  
した中で、公務員宿舎P  
FIで約150億の仕事  
をJVで受注し、次なる  
事業にも積極的に取り組む  
方針を出した矢先、同事

業は事業仕分けの対象と  
なった。先行きは全く分  
らない。  
海外事業  
売上高を意識するのは  
海外だけ。GRAM、OD  
A、日系企業関連の仕事  
を考えている。様々リス  
クを考慮しながら、代金  
回収が確実な事業を手が  
けていく。来期は海外で  
150〜200億円はや  
りたい。ODAはアジア、  
アフリカ地域、日系企業  
関連では中国、インドと  
なる。リスクの少ない仕  
事は例えば道路工事など  
で、基本的にJVで臨む。  
製品販売は海外で事業が  
成り立つかどうかを検証  
中だ。各種の規制があり、  
お客様は誰か、代金回収  
をどうするかを検討して  
いる。国内市場が縮小す  
る中で当然、興味を持つ  
ている。

## 採算性向上に的 戦略事業見直し

して取組む。  
新技術開発  
これまでは開発費用を  
投入することで高い利益  
のリターンがあり、それ

PF事業  
現状、土木や道路事業  
は入っていない。道路メ  
ンテナンスが事業化され  
れば技術開発や創意工夫  
が生かされるのだが。ま  
た従来、建築事業は民主  
体でやってきたが、工場  
・倉庫が少なくなり、マ  
ンションも減った。そう  
した中で、公務員宿舎P  
FIで約150億の仕事  
をJVで受注し、次なる  
事業にも積極的に取り組む  
方針を出した矢先、同事

業は事業仕分けの対象と  
なった。先行きは全く分  
らない。  
海外事業  
売上高を意識するのは  
海外だけ。GRAM、OD  
A、日系企業関連の仕事  
を考えている。様々リス  
クを考慮しながら、代金  
回収が確実な事業を手が  
けていく。来期は海外で  
150〜200億円はや  
りたい。ODAはアジア、  
アフリカ地域、日系企業  
関連では中国、インドと  
なる。リスクの少ない仕  
事は例えば道路工事など  
で、基本的にJVで臨む。  
製品販売は海外で事業が  
成り立つかどうかを検証  
中だ。各種の規制があり、  
お客様は誰か、代金回収  
をどうするかを検討して  
いる。国内市場が縮小す  
る中で当然、興味を持つ  
ている。